
書店と周りの人々と私。

こぶた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

書店と周りの人々と私。

【Nコード】

N2850D

【作者名】

こぶた

【あらすじ】

書店と周りの人々やお客様の事を面白く語るコメディイ小説。

書店と周りにの人々（前書き）

フィクションです。

書店と周りにの人々

私はたまたま行った書店でたまたま求人募集の貼り紙をみてアルバイトとして就職した。

ここで様々なドラマを繰り広げてくれる書店の仲間たち。まずは主な登場人物である。かなり天然ボケとお洒落をしない古沢智子。

30代の既婚者、愛娘が1人いる由美さん。書店で一番の悪人？桐原藤子。

天使の容姿藤木かよ。

書店にくる業者のアイドル川崎みさ。

最後にアルバイトの上司に当たる人物を紹介。横手店長。赤木社員。飯田社員に絹岸社員などだ。

他にも佐藤くんや書店のスタッフはいるが細かい説明や人物的なものに関してはこれからぜひ読み進めていただきたい。

書店のお客様って？

書店のお客は様々な人がいる。私はアルバイトとして入って雑誌担当者になった。朝一で荷をバラマキそれを並べて整理整頓する仕事と明日入荷する雑誌の先月号の抜きが仕事だ。私と同じ雑誌担当で晴子さんというアルバイトがいた。私が雑誌を並べていると少し変わったお客が晴子さんに何やら頼み事をしている様子。

そのお客様は通称アダルトチルドレン。

話を聞いた晴子さんはどこかに電話を掛け始めた。しばらくたつてアダルトチルドレンに何やら断ってる様子。

戻ってきた晴子さんに私は声をかけた。

『さっきのお客さんどうかしたんですか？』晴子さんは笑って信じられない発言した。『お客さんが就職にも就けず、謝金まみれの全くモテナイ男のコミックがあつて俺みたいだから探してくれ頼まれたから出版社に電話したんだよ。』私は目を丸くして『あつたんですか？』と質問。『嫌。絶版だったから断ったんだけどね。』と言って仕事についた。

そうなのだ。このお客さん、アダルトチルドレンは少し変わったお客様。

頭の毛は薄く、黒ぶちのメガネをかけ一見普通のサラリーマン風なのだがアダルトチルドレンの事件はまだこれでは終わらない。数ヶ月たったある日。

夕方から書店は込み始める。

同じアルバイトの古沢ちゃんと一緒にレジを打っていた。仕事帰りのお客様が雑誌やコミックを買っていかれのでかなりの忙しさ。

そんなクソ忙しい中、奴は現れた。

いつもの様に無愛想、無表情の出で立ちの彼はレジの前に来て『求人雑誌はどこにありますか？』と訪ねてきたから『レジの前にあります。』と指をさした。レジには会計待ちのお客様がずらりと並

んでいる中、アダルトチルドレンはその行列をふさぐかの様にしゃがみ込み求人雑誌をめくりだした。

お客様が居なくなり落ち着いた所で私は古沢ちゃんに『何。アイツ。客が並んでいるのに、レジの前に座り込んでムカつく。』

それを聞いた古沢ちゃんは『アダルトチルドレンだから仕方ねえんじゃない。』その言葉に私は思わず吹き出してしまった。

その後もアダルトチルドレンは教習所でも教本にエロ写真を貼ったり、仕事中に胃癌の本を読んで仕事をクビになったりと大変面白いお客様である。

今後もそうであって欲しいと思う私であった。

本気ですか？あなた様。
(前書き)

次項 12月28日。

本気ですか？あなた様。

書店のアイドル川崎さん。通称川ちゃん。愛想も良く、男性にはかなり好感度が高い。スタイルも細身プラス物腰も柔らかい。ときたら勘違いする男がいる。当店には変り者のお客様がいる。

アダルトチルドレンも充分変り者のお客様だが、それにも負けない客が存在する。

川ちゃんがどれだけモテルか少し触れていきたいと思う。

私がバイト始めて2ヶ月ぐらいな時、朝の雑誌のばらまきをすていたら同じ職場の人に何やら相談している。

話を聞いてみると、店によく買い物に来る客の一人丸井さんが川ちゃんにアプローチをしてくるらしい。私はその丸井さんっていうお客さんはお目にかかったことがない。

そこで店で一番長く働いている由美さんに丸井さんがどんな人が聞いてみたのだ。

由美さんの話によると10年前ぐらいから度々出没する人らしい。好みの女の子を見つけては、声をかけてるみたいだ。次のターゲットは川ちゃんに目をつくたのだ。

丸井さんという男、紙の切れ端に自分の知りたい事を書きレジの前までそつと川ちゃんに渡すのだ。渡した切れ端の内容は、血液型が知りたいだの、星座が知りたいだの書いてある。

そんな事は紙の切れ端かかと自分のクチで聞け。

その紙の切れ端を渡した丸井さんは影からじとりと見ている始末。そんな行動を起こす丸井さんは積極的なのか消極的なのか、全く解らない。

私はどんなお客様なのか、知りたくなった。

由美さんの所に駆け寄り私は『丸井さんが来たらおしえてくれ。』と頼んだ。私はこの方その客を見たことない。

周りから情報が入るが出勤にはとりたて来ないのだ。

だが現われたのだ。

大きなリュックを肩に背負い、雑誌を読んでいる。姿、形は、3
0代ぐらいだが、10年前から外見は変わらないらしい。
一体どんな人なのか。

これから見物しながら、リサーチを続けていきたいとおもう。

当店の社員はこんな人。(前書き)

次は12月28日。

予告ガンダムブーム。

当店の社員はこんな人。

新しく移動してきた赤木さんという社員がはいってきた。赤木社員は非常に体臭がする人。

ワキガではないのだがすごく汗をかく人だ。汗をかくと匂うは匂うのだがそこにあまり好ましくない香水が加わってくる。

香水も多少良いブランドをつかっているならまだしも安いコンビニの香水なので汗の匂いと香水の香りでメツチャ悪臭。

赤木社員は見た目も中身も秋葉系。

書店は立ち仕事なのに事務所でデスクワーク。ビジネス書担当なのに品だしている所は全くと言っていいほどみない。

戦艦ヤマトやダヴィンチコード関係が大好き。

そして、赤木社員は絶対嘘だらって話をしてくる。幽霊話だ。毎晩、幽霊と戦っているから寝不足だとかお前は霊能力者？そこまでなら転職したら？戦艦ヤマトの写真を見せて、これが本物との違いを話してみせたりとか、お前、鑑定師になったら？普通の人では解らない事を話してしまう人である。

赤木社員に一番好奇心を抱いたのは、彼女の話である。赤木社員いわく、『昔、付き合っていた女がいて包丁を突き付けられたことがあるけどね。』包丁を突き付けるほど赤木社員を好きな女性って一体。

ある日、桐原さんが私に話を持ちかけてきた。

仕事のことで赤木社員に話し掛けた所、丁度、休憩中だった赤木社員。夕御飯に唐辛子ラーメンを食べながら振り向いたらしい。

そしたら滝のような汗をかいて、ラーメンをすすりながら返事をしたそう。桐原さんは『そこまでして汗だくになってラーメン食べなくても、怖かったです。』私は笑い転げながらも一度見てみたいと思った。だが、そのあとすぐカップ焼きそばに変更したらしくラーメンを食べてる姿を見ることはできなかった。残念。

ガンダムブーム (前書き)

次回は12月29日。

タイトル伝説のアルバイト。

ガンダムブーム。

書店はある意味オタクの巣窟なので、常連さん多し。私自身も結構オタクだと思っただけ働いていたのだが上には上がいる。コミック、フィギュア、限定版、ある一定のものは『何でも集めたいです。』と言うお客様がいる。

当店では岩井様、齊藤様である。齊藤様は下の名前が一字違いでガンダムが好きなお客様がもう一人いる。

天然で有名な古沢ちゃんはこれでミスをしてしまったのである。

男女共に人気の高いガンダムシリーズ。

古沢ちゃんは、何故だか解らんが常連客にお取り置きや定期してる本、客注など、知ってる常連客だと『入荷しましたよ。』と薦めてしまふ傾向がある。

ある意味、お客様としては、有り難いがある意味、迷惑である。

そんなこんなで、一字違いの齊藤様に客注の品を渡してしまった。是では注文した、本人が来店された時には、本がない。

来店された時に、私は古沢ちゃんに、聞きに行った『ガンダムシリーズの客注の品がないんだけど古沢ちゃんは『奥さんが来て、売ったよ。』その事をお客様に言ったら『奥さんはここにいます。』と返答されたので、事務所にいた古沢ちゃんを連れて来た。

そこで、間違えて、売ってしまった事が発覚。

あわてて、他店に古沢ちゃん、買い出しに出た。

一方、間違えて買わされてしまった一字違いの齊藤様が返品しに来るんじゃないかとあわくったが、別に返品にも来ず、そのまま時は流れた。

古沢ちゃんは『間違えて売ったにも関わらず、その後来店して、レジを打つんだけど返品をしたいとも言っ来ないから不思議なをだよ。』私は笑い転げた。

お客様とのトラブルは、困るがその天然は、これからも発揮させて

いた
だ
き
た
い。

伝説のアルバイト。(前書き)

次回は1月1日

伝説のアルバイト。

私より二週間早く入った伝説の人かえでさん。何故伝説かと言うと少し変わった人なのだ。見た目は年齢不詳。少女の心を持った女性だ。私は六年間の間三人現われるが一人目と言っても良い。

かえでさんは、レジでコミックのシュリンク巻きをしていた。いきなりしゃがみ込み、『怠い波が来たんです。』と言っている。

そこへ桐原さんが『かえでさんレジの中でしゃがみ込まないでください。』と注意を受けていた。

私は笑っていたが、他のスタッフはあまりいい顔しなかった。

ある日はもうそろそろ休憩だと思い、掃除に回っているかえでさん呼びに店内を探しに行ったら女性誌の前で足を投げ出して床に座っているのである。私はびつくりした。店にはお客様が立ち読みをしている、そのさなか床に座っているのである。私も少し常識外れのところがあるがこれには一体？

書店では珍しいぐらい怖い人、桐原さんと喧嘩勃発。学生バイトと昼間の従業員の入れ替わり時間は18時。後一時間と言う所で、体調が悪いと言いだし、退社しようとした。夕方は大変込むので桐原さんは『後5分我慢できませんか？』

とレジの込んでるのでお願いした。だがかえでさんの返答は『体調の悪い人の気持ちなんてあなたには解らないんです。』と言ってさっさと帰ったらしい。

桐原さんの話を聞いて誰しも体調が悪いときはあるだが、お客さま商売の本屋。多少体調が悪くても、お客様のくぎりがつくまで接客に重視していただきたい。変わっているからこそ私はかえでさんが面白いのだ。

弱肉強食の家庭？（前書き）

次回、1月6日夜。

喧嘩勃発？

弱肉強食の家庭？

桐原さん。客注担当者である。彼女の性格はかなり凶暴、陰険で自分の意見を押し付ける女性である。

仕事上ではかなり迷惑である。

そんな彼女はかなりの変り者でもある。

ある日、仕事中に由美さんと桐原さんが何やら話をしている。

由美さんが家の周りで死因不明の鳥が死んでいたので片付けたという話。

『嫌だったけど、片付けたんだよね。気持ち悪かったよ。』それを聞いた桐原さんは『原因不明で死んでる鳥は怖くて食べられませんが、前に車を走行中、キジをひいちゃって。あつ。ひいちゃったと思って、家に帰ってキジ鍋にして食べましたもん。』と言い放った。私は、そばでその話を聞いて『え？』。桐原さんは由美さんに同意を求めず私に求めてきた。『キジ鍋たぶますよね？』桐原さんは強く言ってきたので。『たべないです。』その言葉に激怒して、『食べてあげないと、可愛そうじゃないですか！普通、食べますよ。』更に強い口調で言ってきたので、『いいえ！他の家庭は知りませんが、うちではたべません。』と私は、言い返した。

それにムツときたのか、今度は由美さんに同意を求めている。由美さんも食べないみたいだ。だが、あまり強い口調だったのだじろいである。

私は、いくら車でキジを引いたとは言え、キジをたべるって……。どんな家庭なのだろう。一度、お目にかかって見たいものである。彼女はある意味伝説だ。その後も社員と喧嘩をしたり、お客様と喧嘩したり、大変な凶暴ぶりを見せ付けてくれる。

でも、一番の凶暴は私だったりする。詳しくは次回にわかります。凶暴女。

喧嘩勃発？（前書き）

次回は1月9日夜。

かよの悲劇。

喧嘩勃発？

私は、B型である。B型を大変気にしている。何故なら世間の評価があまりに悪いからだ。

そう当店でも男性社員でB型がいる。

鎌原さんだ。超B型社員。元々女性に好かれるタイプではないのだが、数々の伝説を残していつてくれる社員だ。

第一回戦。

喧嘩試合は桐原さんVS鎌原さん。

アルバイト一人が風邪をひいたので、皆で心配して帰るように薦めた。

そこへ鎌原社員が現れ、アルバイトに帰るなと文句を言い始めた。

そこで、ぶちギレた桐原さん。鎌原社員と対決。カーンとゴングが鳴り、喧嘩炸裂。

それだけではない、事件はまだ続く。

当店で品だしする為の台車が非常に足りなかった。

そのため台車を二台頼む事にした。鎌原社員、ご使用台車と古沢ちゃん用の台車二台。

だが、鎌原社員は馬鹿だからダブルの大きい台車を頼み、古沢ちゃんはシングルの小さい台車を頼んだ。後日、二台がきた日、古沢ちゃんはおやすみだった。鎌原社員が頼んだ台車は予想以上に多かった。鎌原社員は、古沢ちゃんが休みを良いことに、シングルの台車を自分のものにしたのだ。

私は、『あゝ。また喧嘩が始まるなあ。』と思いながらも、みてみぬ振りをした。翌日、喧嘩炸裂し、第二回戦は終わった。

第三回戦は私と鎌原社員だ。

川ちゃん（川崎さん）と鎌原社員の喧嘩が堪えなかった。川ちゃんがミスすると、決まってあたりちらし、トイレ通行止めにして喧嘩をしている。そんなこんなである時また、喧嘩を始めて、古沢ちゃ

んが事務所が笑いながらでてきた。

私の所にきて困った様子で話始めた。

事務所で、コミックのストックを出していた所、いきなり、川ちゃんが泣きながら入ってきたらしい。

店長に『鎌原さんが……』。

鎌原さんが……。

』と泣いて訴えたそうなの。

店長は、古沢ちゃんに『古沢、ちょっと、出ていってくれないか！』
と言われ、仕事は中断。

古沢ちゃんは、仕事が出来なくて、店内、うろろう。暫らくたち、事務所は解放された。川ちゃんは事務所で、パソコン入力していた。私は、『川ちゃん、大事？』と聞いたら、『はい。』と答えたので、まあ重症は重症だが、事務所で仕事をしているぐらいだ。平気であろうと思う、私もそこで仕事を始めた。

そしたらいきなり、鎌原社員が入場してきて、またもや追い討ちを掛けるように川ちゃんに激怒している。『仕事はやる気は、あるのか！ないのか！どっちなんだ！』事務所でもまた、喧嘩勃発。

それを見た私は、ブチギレた。

『いい加減にしてよ。皆、いい迷惑なんだよ。そんなんだから周りに嫌われるんだよ。喧嘩するなら他行つて！』と鎌原社員に私は怒鳴ってしまった。

その後、何年もたってから知った事だが私が怒鳴った事で鎌原社員は泣いたらしい。男を泣かせてしまった女である。

鎌原社員。ごめ〜ん。私もB型だね。泣かせてごめ〜ん。

藤木かよの悲劇。(前書き)

次回は1月13日夜。

藤木かよの悲劇。

藤木さんはゲーマーでスポーツ好きである。

バレー、サッカー、野球、テレビでワールドカップなどが開催された時には、録画までして見るという気合いが入った女性である。

今までの説明だと、ボーイッシュな感じを想像すると思うが、藤木さんは今をトキメク萌系だったりする。外見は二十代半ばとは思えないほど、童顔で可愛い感じのおっとりした周りに好印象を与える天使とも言える容姿である。

だからこそと言うか外見が可愛いからこそ悲劇はおきる。他店から神谷くんと言う男性従業員が当店に応援に来た事から悲劇は始まった。藤木さんは外見だけでなく発する言葉も可愛い。

男性社員はもちろんの事感じをする人は多い。

神谷くんはその勘違い男だった。

手伝いに来ている間、藤木さんの『ずっとここにいて下さいね。』

と言う言葉に勘違いをし、好きになってしまったのである。神谷

くんは私に最近上映されてる映画で話題性の高いものはないかと、

訪ねてきた。私自身、神谷くんが藤木さんの事好きなことすら知らなかったねで人気の映画を薦めた。

情報を得た神谷くんは、こっそり、藤木さんを映画に誘ったのである。デートに連れ出すために『映画のチケットが二枚あるから一緒に見に行つて欲しい。』と持ってもいないチケットをさぞあるかのごとく嘘をつき約束にこぎつけたのである。

藤木さんはそうとは知らずオッケーしてしまった後で他の従業員から神谷くんは藤木さんの事を好きなのだと忠告を受け、藤木さんは、危機感を覚えた。

家に帰って慌てて神谷くんへ電話。

神谷くんは馬鹿だから、電話に出た時に『今、映画館いるんだよ。チケットを予約してるんだよね。』と聞いて、藤木さんは、断つて

も、また、誘われると思い、行くことにした。 神谷くん自身築いていないだろうが、大分穴だらけの男である。

チケットが二枚あるからと誘ったのにもかかわらず、今チケットの予約をとってるって……。この人は……。少なからず、誘った女性には秘密にしておくべきである。神谷くんと藤木さんは、映画を見る前に食事に行った。

そこは、雰囲気の良い、スパゲティレストランではあったが、仕事で疲れていた藤木さんは、食欲もなかつのでチョコレートケーキと紅茶を頼み、神谷くんは普通にスパゲティとジュースをオーダー。

料理が運ばれてきた際に、店員が『こちらのカーテンは閉めますか？』と聞いてきた。それに反応したのが神谷くん『閉めます。』それを聞いた藤木さんはビックリして、『まずい。』とおもった。

映画は最終公演を見た後、夜も11時を回っていたので真っ直ぐ帰っていった。 度が過ぎる行動は相手の女性を警戒心や失望を招く、嘘は避けてもらいたいものである。

蚊取り線香？（前書き）

次回 1 月 1 6 日夜。

謎のお客様。

蚊取り線香？

真夏の暑いさなか、当店は冷房完備だが、店の広さとエアコンの数が比例してないので、メチャクチャ暑い。私はいつものようにレジで作業をしていると、何処からともなく、煙がただよってくる。

現われたのは、煙を背負ったおじいちゃん。

私はこのおじいちゃんを見ると『また来た。』と思う。

だが、私の中だけの名物おじいちゃんである。

煙を背負いながらいつも本を買いに来る。

ただ、買うときが問題なのだ。

とにかく、耳が遠い。

この時、いつもサッカー台で本を袋づめするのが、古沢ちゃん。

毎回、煙を背負ったおじいちゃんに、『スタンプカードありますか？』と聞いている。

私は一生懸命笑いを堪えながらレジを打つ。

当店はスタンプカードと言うものがある。色々面倒臭いカードなのだが、煙を背負ったおじいちゃんは、いつも持っていないと答えるのである。

『あゝ。ないみたいだなあゝ。作ってもらおうか。』この言葉にまた笑いが込み上げてきた。

実はこのおじいちゃん、お客さまとして、来るたびにカードを作っているのだ。多分、家には何十枚と、置いてあるはず。

それなのに、毎回、古沢ちゃんが、このおじいちゃんに同じように、薦めるから笑えてしょうがない。

古沢ちゃんは変に、おもったのか、私に聞いてきた。『さっきから笑ってるけどどうしたの？』私はいままでの事を、話して聞かせた。古沢ちゃんも、笑っていたが、毎回、スタンプカードを薦めるのが、当店の仕事。

煙を背負ったおじいちゃんの、煙は蚊取り線香。

今日も蚊取り線香背負ったおじいちゃんが現れ、スタンプカードを薦めている。あの、おじいちゃんが歩けば、煙も動く。ある意味、夏の風物詩である。

彼の恋人？（前書き）

大変ご迷惑をおかけしております。次号はキッチンと日時を守らせていただきます。次回は、1月29日夜です。

彼の恋人？

私は好奇心が強いB型。私は古沢ちゃんと斎藤くんの交際に立ち入る事になる。古沢ちゃんはまだ男とお付き合いしたことがない。どんな風に付き合っているのか、非常に興味深い。彼氏、斎藤くんは、インターネットが大好きで、仕事と睡眠以外はほとんどパソコンに向かう暗い男である。

そこで、問題1が勃発。定期的に、インターネット仲間いわゆるチャット仲間と集まってバーベキューや飲み会をしている、斎藤くん。

そのチャット仲間に女子もいて、男性問題で揉めている女性がいるのだ。

まあ、男問題で揉めているのは別にいいとして、斎藤くんはその男性問題に苦しんで、住むところがないという女性を斎藤くんの家に住ませるという話がでた。

古沢ちゃんと言う彼女が、いるとは言え、普通、女の子を家に住ませるだろうか？。

この男、斎藤くんは、彼女より、チャット仲間大事にする男だ。私自身も彼氏より、友達優先タイプなのだが、それにしても、彼女以外の女性を家に住ませるなんて、常識を疑う。

この冷めた考えの斎藤くんと古沢ちゃんの溝を一層深くした事件がある。

古沢ちゃんが、斎藤くんの家に遊びに行つて、不注意で階段から落ちた。

確かに、彼（斎藤くん）が、古沢ちゃんに怪我を負わせたわけではない。

でもいくら何でも、彼氏なら、心配の電話の一本も寄越すであらう。

こいつは、その上をいく男であつた。

彼女が怪我をしているのに、インターネットで自分の世界に入り込んでいた。

足が治った後、遊びにいったら、真っ暗な部屋で彼はチャットをしていたそうなの。怖い奴。

斎藤くんは、それだけではない。

彼女に対してかなりケチな男である。

皆さん、男性がデート費用を全部出せとは、言いません。ただ、ケチと優しさが無い男は私は嫌いです。私も、全て、男に出してもらうのは、嫌だし、自分の分は、自分で出したいタイプだ。

でも、男がおごる時は、ケチケチせず、お金を叩いて頂きたい。

古沢ちゃんの好物は酒である。

それにプラス好きな人と飲めば、もっと楽しいのだろう。

彼と店で飲んでる時、毎回、結構な量を飲む。

飲み代が高いからと斎藤くんは古女房のように嫌みを言うのだ。

電話でネチネチその事言いまくる彼に古沢ちゃんは一喝したのだが、この二人遠距離恋愛の為、1ヶ月に一度しか逢わない。

なのに、たかが、飲み代でネチネチ言う男も珍しい。

ネチネチ男斎藤くんはこれだけでは、納まらなかった。

ある日、斎藤くんと古沢ちゃんが、東京に遊びにでた時のこと。

私も含め、古沢ちゃんが住んでる所は元々田舎の為、二人でデートをしている時、街中で配るティッシュやチラシをついつい貰ってしまふ。

それを見たネチネチ男斎藤くんは、古沢ちゃんを付け回しながら、ネチネチ説教を始めた。

あんた！古沢ちゃんの父親でもないのに、そこまでネチネチされちゃあ。楽しいデートもうなげ下がりだよ。

大変な彼氏である。

おとなしい古沢ちゃんはその場を耐えた。

古沢ちゃんには悪いが、何が楽しくて、彼と付き合い続けているのか、疑問である。

もし、これがドラマなら、大正時代の日本男児か、暴言をはく夫に耐える女である。見ていて楽しいが本人は大変であろう。

このネチネチ男との恋愛のわかれば、2年の月日がすぎた、ある人の訪問により決定的になる。

訪問者は、古沢ちゃんの中学時代の同級生で、佐々木さん。佐々木さんは、古沢ちゃんに、お金を貸して欲しいと、お願いに店に現われた。

本当に厚かましい人で、金がないと言い、古沢ちゃんに1000円借りていった。その翌日も現れ、今度は、サラ金でお金を借りたいから名前を貸して欲しいと言うのだ。

いくら中学時代の同級生とは言え、何年も、連絡をとってない人間に、名義なんて貸せる訳がない。

何かと店に電話を掛けてきたり、店の開店前に待ち伏せたりと、その、つきまとわり方と言ったら、まるでスッポンだ。

私は、あまりの厚かましさに、頭にきたので、電話が来たら断り、来店したらいいと言い、古沢ちゃんに合わせないようにした。

私は、意地が悪い、プラスアルファ人をいじめるのが大好きだ。ここぞとばかりに、普段のストレスを佐々木さんにぶつけてやった。

また、これが、面白い事に彼氏、斎藤くんは全く心配しない。

まさに他人事！

さすがに、古沢ちゃんも疲れはて、別れを告げる事にした。

彼氏なのに、彼女がピンチの時、助けてあげないなんて最悪である。

幸か不幸かは、本人しか解らない。

私が言えるのは、斎藤くん自身、常識として、人を心配し、気遣ってあげる、優しい心をこれから長く生きて行く上でもって欲しいものである。

謎のお客様？（前書き）

次回は1月31日

謎のお客様？

当店でスタンプカードができたばかりのころ。

ある女性のお客様が地図の本をお買い上げになった。地図の本をお買い上げになる際に、スタンプカードを作る事を、古沢ちゃんが接客して進めた。

女性のお客様は、『いや…いや…。』と言って不振な態度だった。

だが、その場合は、スタンプカードを作り、本をお買い上げになって帰って行った。

翌日。

地図の本をお買い上げになった、あの、女性のお客様が、来店されたのである。いきなり、レジに立ち、『返金したい。』と言ってきた。

返金するにあたって、システム上、お名前、住所、電話番号と返金理由を記載してもらう。

『こちらにご記入下さい。』と言って、記入をお願いして、返品作業終了。

但至少お客様の雰囲気がおかしい。

お客様が去った後、古沢ちゃんにあのお客様の事をきいたら、昨日様子を話してくれた。

返品の本を見た所、 返品理由欄に『スタンプカードを薦められた為』と書いてある。

そして、名前と自宅の電話番号は書いてあるが、住所の欄には、住所不定で印されている。

それを見て古沢ちゃんが一言。

『キャンピングカーで生活しているのか。』と発言。おもわず、大爆笑。

古沢ちゃんはかなりの天然ボケ。

常日頃からそうであって欲しいと思う私であった。私には天然良さ

ない、どちらかと言うと、嫌な奴だ。他の職場はどうか知らないが、書店の皆は暖かい存在である。次回は少し暗いお話。もし自分がその立場ならどう行動するか、考えて頂きたい。私は、多分逃げると思います。

不倫1。(前書き)

次回予定がたちません。

来週中には、2を書きます。お楽しみに

不倫1。

誰でも道を外れる事は良くある。

ただ、大きく外れると修正が難しい。

由美さんの話がそれに値する。

由美さんは私より4センチぐらい身長が高く、少しぽっちゃりしていた。

だが、ある日を境に、急激に痩せていったのである。由美さんの異変の原因は旦那さんだった。

まず、旦那さんが家で早歩きをはじめた。

『何をあんたは、そんなに急いでいるの?』と言わんばかりにだ。

その後にきたのが、由美さんに対する徹底した無視。子供以外とは、一切くちをきかなくなった。

余りの異常な行動に不信を抱いた由美さん。

そこで色々調べる事にした。

まずは、車の中だ。

ダッシュボードを空けたらポツキーが入っていてびっくり。

旦那は、自分で買ったたりするタイプではない。あわてて閉めたがかなりショック受け、夜中には、携帯で、メールをピコピコ、いくらなんでも怪しい。

由美さんは意を決して、旦那さんに問い詰めた所、『俺の事が信じられねえんかあ。』と暴言を吐き、テーブルを殴り付け、部屋に、引っ込んでしまったのである。

由美さんは、動揺し、精神的疲れ、病院回りをし始めた。

そんな由美さんを尻目に旦那さんは、日曜日になるといそいそと出掛けたのである。

ここまでくれば、由美さんだって察しがつく、そお、女の影だ。

由美さんの旦那は、真面目なタイプ、仕事熱心で女遊びをするような人ではない。

だから、女に走ってしまふなんてショックがおおきいであろう。
由美さんはある行動にでたのである。

不倫2。(前書き)

次回は来週、お楽しみに。

不倫2。

皆さん。興信所と言うのをしってますか？

旦那が日曜日いそいそ出掛けて行く姿を見て、由美さんは、悩み、激やせじ病院通いまでしたあげく、興信所に、電話をかけて旦那への疑惑をはっきりさせる事にしたのです。興信所に依頼をしたものの。

旦那の尻尾は中々つかめずにいたのだ。

女と逢つてるところまでは旨くいくものの、ホテルに入る現場は捕らえる事は出来ないでいた。

そこで、由美さんは考えた。

旦那に、一泊旅行を愛娘としてくると報告。

そしたら、旅行に確実に行って欲しいらしく、あれこれ、確認の電話を仕事中の由美さんにしてくるのだ。どうしてそんなに旅行に行かせたがるのか、疑問である。

当日、由美さんは愛娘と旅行に出かけた。

帰ってきて、興信所から電話がきた。

なんと旦那は、女と不倫旅行に出掛けていたのだ。旦那は由美さんに、『仕事先の人とつりに行ってくる。』と言って出掛けたのに、興信所から来た結果は、不倫旅行。

後日、証拠のビデオやら写真やらが由美さんの手元に届いた。

不倫旅行なのに、宿泊先は、自分の本名で予約を入れていた旦那さん。

せめて偽名を使うとか、してほしい。

バレないための最善の努力をして欲しいものである。由美さんは考えた答えは、弁護士を通して、相手の女に法的慰謝料を請求した。手続きをとった。

次の日、家族三人で、外食をした時のこと、由美さんは、思わず『これが、家族としての最後の外食になったね。』ともらした。

旦那さんは、何を言ってるか解らなかったが、数日後。

怒り狂って旦那は由美さんに詰め寄った。

『この、慰謝料請求はなんだ！お前のそういう所が気に入らない。』
と罵りまくし立てた。

由美さんも、不倫について問い詰めたので言い争いに。旦那さんは、不倫理由が『お前が、味噌汁を作らないからだ。』とか、『御飯をレンジでチンするからだ。』だの、呆れてものが言えない。この世の中、電子レンジでチンしたら、不倫をしてもよいのだろうか？私自身、料理が出来ないので由美さんがダメなら私はすぐ男にすてられてしまふ。社会において、家庭を持った一人の男であることを、自覚して頂きたい。

事項に続く。

不倫2。（後書き）

読んで頂いて、アクセスしてくださってる皆様へ。なんでもいいです。評価と感想を募集しております。これからも、皆様の応援に答えられるような作品を作っていきます。よろしく願います。友達と私も読んでくださるとうれしいです。そちらも、評価と感想をおまちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2850d/>

書店と周りの人々と私。

2010年10月23日01時46分発行